2018年7月20日　神戸新聞

「支援の手 まだ足りず」

西宮のNPO 被災地現状を報告

西日本豪雨の被災地支援活動を報告するNVNADの渥美公秀理事長＝19日夜、西宮市六湛寺町

西日本豪雨の被災地支援活動を始めた西宮市のNPO法人「日本災害救援ボランティアネットワーク」（NVNAD）が19日夜、同市内で活動報告会を開いた。浸水で多くの犠牲者が出た岡山県倉敷市真備（まび）町地区や、土砂崩れで男性1人が死亡した宍粟市に入った大学教授や大学生が「ボランティアの絶対数が足りない」と支援の継続を訴えた。

NVNADは浸水や降雨が収まった10日以降、情報収集する先遣隊が被災地入り。土砂が流入したり浸水したりした住宅で家財道具の撤去や泥かきなどを手伝い、住民の要望を聞いた。

報告会では、被災した複数の府県を回ったNVNAD理事長の渥美公秀・大阪大大学院教授が写真を示して現地の状況を説明。ボランティアの課題として、救援物資を被災者に届ける人手の不足や、岡山では真備町に人員が集中しすぎているなどと指摘した。

さらに連日の猛暑が重なったため、「休憩を挟みながらで、作業効率が上がらない」と活動の難しさを伝えた。

（初鹿野俊）